

大山元帥

飛泉作

特71

562

301169-000-9

特71-562

大山元帥

眞下飛泉/作, 三善和氣/曲

M40. 5

CEH-0001





特 71  
562



77W13823

### 序

史を縮きて古英雄の行動を見る、常に拍案して快哉を叫ばしめずんばあらず。然れども之を今日我國の將卒と比す、そも幾何の徑庭ありや、今の戦闘は昔の如く弓箭の争ひにあらず。一彈よく城を破り、一撃大艦を覆すの兵器を持して、戦線亦數十里に延びたりといふ。而して其精神力の偉大なりしことは、世界の耳目を聳動せしめたる所、決して古英雄に劣らずといふべし。あゝ桃櫻は春を俟つて開き、人心の美花は急なるの日に咲く。此花をして十年百年の後に眺めしめよ、蓋し明治天皇の代、三千年の英傑を萃めつくせりとせん。而して我大山元帥は其最も大いなるものなり、誰かよく此英傑と時代を同じくしたる幸福を思はざるものぞ。余輩亦敬慕措く能はず、聊か以て元帥の凱旋を歓迎するの誠をつくすのみ。……飛、泉……



# 大山元帥

(と調二拍子)

三和善氣作曲

5. 5. 5. 5. | 6. 6. 5. 5. | 1. 2. 3. 1. | 2. 0. |  
 ア ア ワ ガ オ ヤ マ ゲ ノ ス 井 ハ

1. 2. 3. 3. | 2. 1. 6. 6. | 5. 5. 6. 1. | 5. 0. |  
 モ ト カ マ シ マ ノ ハ ヲ シ ニ テ

5. 5. 5. 1. | 6. 6. 5. 3. | 2. 2. 1. 3. | 5. 0. |  
 エ イ コ サ イ マ タ カ モ リ ト

5. 5. 6. 1. | 2. 5. 3. 3. | 2. 1. 3. 2. | 1. 0. ||  
 チ ナ ヒ ク イ ト コ ノ ア イ ダ ガ ラ

## 大山元帥

真下飛泉

一、 ああわが大山元帥は

もと鹿兒島の藩士にて

英雄西郷隆盛と

血をひく従弟の間柄

二、 まことや優れて夙くより



三、

瑞西國に留學し  
 明治の四年に歸朝して  
 陸軍大佐となられしが、  
 明治九年に熊本の  
 敬神黨を討ちしづめ  
 翌年西南戦争には  
 私情をすてて勳あり、

四、

つづいて歐洲各國の  
 兵制視察をとげられて  
 やがて陸軍大臣の  
 重き位につかれしが、  
 彼の日清の戦争には  
 我第二軍に長として  
 大連旅順を陥し入れ



六

威海衛をもとり給ふ、  
 かくして次第に累進し  
 我帝國の元帥と  
 衆に仰がれ給ひしが  
 日露の戦争始まつて、  
 七月六日に遙々と  
 陛下の勅をかしてみて

七

八

満洲軍を總べん爲  
 進んで御渡海なされたり  
 これより以前我軍は  
 諸所の戦さに勝を得て  
 今や一擧に勝敗を  
 決せんものと勇躍し、  
 八月夏の末つ方

九



十一、  
 クロパトキンが死守したる  
 遼陽城に對ひしが  
 難なくここをば攻めとつて、  
 十月半の沙河にても  
 戦線廣き大軍を  
 左に右に神妙に  
 手足の如く働かせ

十二、  
 翌年一月下旬には  
 黒溝臺に會戦し  
 三月上旬奉天の  
 大戦争に至るまで  
 兒玉大將もろとも  
 軍略智謀湧く如く  
 勝算歴々掌の



十三

玉をば握るにことならで、  
 此度はこそは危しと  
 汗を握れる世界をば  
 美事に勝を制しつゝ  
 驚嘆させしも幾度ぞ、  
 さはれ將軍年すでに  
 耳順に近き老の身の

十四

お國の爲といひながら  
 かの満洲の二年や、

十五

苦勞はさせじの御心か  
 陛下は「すでに和は成りぬ  
 凱旋せよ」と有難き  
 仰を下し給ひたり、  
 部下の將士に先だちて

十六



十七、  
 歸るは本意にあらねども  
 勅命さらにかしこしと  
 奉天城をいで給ふ  
 陛下は尙も侍従をば  
 迎への爲に遣はされ  
 我民衆も萬歳を  
 となへてお迎ひ申したり、

十八、  
 さても陛下の御前に  
 立ちて戦さのことでとを  
 奉告なされし大將の  
 感慨いかに深からん  
 十九、  
 げにや其名の大山の  
 動かぬ如き英風と  
 將た温厚の心情は



二十、  
 三つ子もお慕ひ申すなり、  
 ああ陸に此大將あり  
 海には東郷大將あり  
 並びて國の礎と  
 世界の上にかたからん。

眞下飛泉先生作

定價一部金五錢  
郵税貳錢

東郷大將 第二十五版  
 乃木大將 第十版  
 兒玉大將 第三版

明治三十八年十二月十八日印刷  
 明治三十八年十二月二十日發行  
 明治四十年五月十七日廿五版發行

定價 金貳錢



著作者 眞下飛泉  
 作曲者 三善和氣  
 發行兼印刷者 藤井孫兵衛  
 印刷所 京都印刷株式會社

發兌  
 京都市御幸町通姉小路(長電話五三二)五車樓  
 東京市日本橋區橋正町(本局八八七)



眞下飛泉先生作歌

定價一冊金貳錢郵稅六冊迄金貳錢

學校及家庭  
用言文一致  
叙事唱歌

武雄は出征して或は露營の月を眺め或は戦友をいたはりました。  
遂に負傷して廣島まで歸り親切な看護をうけてよくなりました。  
平和になつて凱旋しました、凱旋して歸つてから村長になるまで、  
いろいろなことがあるのです、第七篇をこらんなさい。

第一篇	第十二篇
出露	夕飯
第二篇	第八篇
戰友	墓前
第三篇	第九篇
負傷	慰問
第四篇	第十篇
看護	勲章
第五篇	第十一篇
凱旋	宵業
第六篇	第十二篇
凱旋	長業

(全國市町村各書店に於て發賣致居候也)